

ひかりのこ

10月園便り
聖ミエル幼稚園
2017年9月21日

月主題：動く

『「tupera tupera」亀山さん読みきかせの会』

8月のことになりますが、31日（木）に、『パンダ銭湯』『しろくまのパンツ』などの絵本の作者である、「tupera tupera」の亀山達矢さんが来園し、子どもたちにご自分の絵本をたくさん読んでくださいました。一緒に読んでくださった絵本サークルのお母様方、見に来てくださった保護者の皆様、ありがとうございます。

31日の前日や、当日、亀山さんとたくさんお話をする機会がありました。

亀山さんは、現在奥様、二人のお子さんと、京都に住んでいらっしゃる。「tupera tupera」は奥様とお二人のユニットで、お二人で活動をしていらっしゃる。ご夫婦で絵本を作っている作家さんの多くは、役割分担（例えば奥さんが文章担当、旦那さんが絵を担当する）をして絵本を作るそうですが、お二人の場合は、特に役割が決まっていることもなくお二人で作られているそうです。また、お子さんが小学生になってからは、もっぱら亀山さんが、全国の講演や、ワークショップをこなしているそうです。

とても有名な、「旬な」方であるはずなのに、お話をしても全く垣根がなく、大変親近感が持てる方でした。ここには書けませんが、『これはすいへいせん』の谷川俊太郎さんとの誕生秘話も教えていただきました。

しかし、読み聞かせ会のリハーサルになると、さすがプロフェッショナル、より良いイベントとなるよう、立ち位置や、映像の映し方、タイミングなどに関して、細かい点にも注意を払っていらっしゃいました。

特に、『やさいさん』に関しては、「すっぽーん」の掛け声と共に次の画面を映すところ、全般にわたって亀山さんが絵本をめくってから次の画面に移るようにするところが難しかったようです。映像を担当した佐藤先生は、打ち合わせで何度も練習をして苦労したことと思いますが、その甲斐あって、子どもたちをはじめ会

場のみんが楽しめる、とても良い読み聞かせの会となりました。その後、保護者の皆様にお持ちいただいた絵本にサインをしてくださったのですが、これまたすごい。一つのサインに2分間くらいかけて、絵と言葉を丁寧に丁寧に書いてくださいました。

全てにわたって、亀山さんのご自分のお仕事に対する誠実な姿勢が見られて、本当に魅力的な方でした。

サインは、幼稚園の子どもたちへも書いていただきました。玄関に飾ってありますのでご覧くださいね。

今回は私が大会副委員長を務めた「第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会」の講師として来札されたため、その前日に幼稚園訪問をお願いしたのですが、基本的には幼稚園、保育園での公演はお受けしていないそうです。ミカエルに来てくださり、本当に良い機会をいただけたなあ、と感謝でいっぱいです。

また来札の際は、お会いしましょう、と言葉を交わしています。亀山さんからも「札幌に行くときは、必ず連絡しますね。」とメールをいただきました。また、お会いできる日が楽しみです。札幌でのイベントが開かれるときには、お知らせしますね。

園長 渡部 良子

